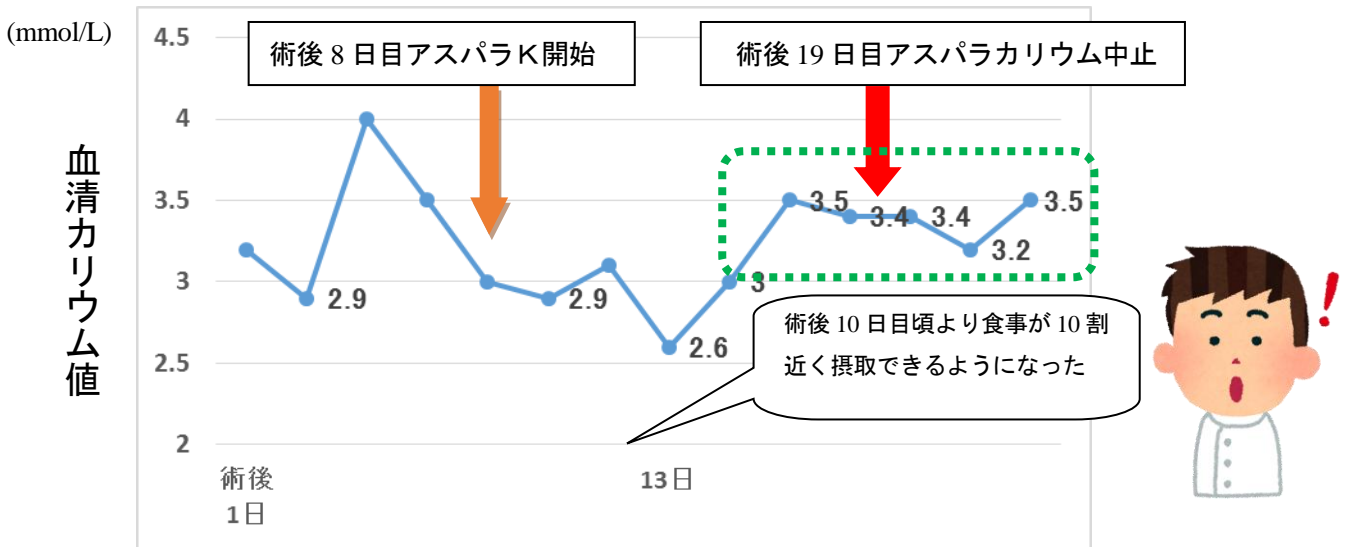


検査値確認による副作用回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬剤師が検査値を確認し必要な薬剤の処方提案、副作用回避を行った事例を紹介いたします。

【事例】

フロセミド錠を服用している患者の弁置換術後の血液検査結果を確認したところ、血清カリウム値が2.9mmol/L(Grade3)と低下していることに気が付いた。術後数日しか経過しておらず食事摂取量が不十分であり、血清カリウム値低下によりQT延長を引き起こす可能性のあるアミオダロン錠を服用していた。血清カリウム値のさらなる減少と副作用発現防止のため担当医へカリウム製剤の投与を提案し、アスパラカリウム散が開始となった。その後、血清カリウム値3.0mmol/L(Grade1)以上に回復し、食事摂取量も改善しておりアスパラカリウム散の内服は中止となり経過観察となった。薬剤師が検査値を確認することでフロセミドの副作用増悪とアミオダロンの副作用発現を防ぐことができた。



有害事象(副作用)評価にCTCAEを用いましょう!

CTCAE(Common Terminology Criteria for Adverse Events)とは有害事象共通用語規準といい、世界共通で使用されることを意図して作成された有害事象に関する評価規準です。有害事象(AE)の重症度をGrade0(正常)~5(死亡)と定義し、各有害事象の重症度の説明を個別に記載しています。

(※すべてのAEがすべてのGradeを含むわけではなく、一部のAEではGradeの選択肢が5種類未満となっています。)

CTCAEを用いることで、発生した有害事象の重症度を評価することができます。それを元にすぐに薬剤師の介入が必要なのか、経過観察でよいのか等の判断材料の1つとすることができます。

例) 低K血症

Grade 1	<LLN(施設基準下限)- 3.0mmol/L
Grade 2	<LLN(施設基準下限)- 3.0mmol/L または 症状がある または 治療を要する
Grade 3	<3.0-2.5mmol/L または入院を要する
Grade 4	<2.5mmol/L または生命を脅かす
Grade 5	死亡

検査値が同一でも症状の有無や、治療の必要性により Grade が異なります!